



2016年10月25日

報道関係者各位

慶應義塾大学

第7回マイボイスワークショップ開催（11/5）

～失われる声を救うために、医療と大学が協働～

2013年から、慶應義塾大学の川原繁人（言語文化研究所准教授）、皆川泰代（文学部准教授）、杉山由希子（理工学部准教授）は、ALSなどの難病患者の支援をするために、東京都立神経病院の作業療法士・本間武蔵氏とボランティア団体のパソボラの吉村隆樹氏が中心となり開発した「マイボイス」や「Hearty Ladder」、「Hearty AI」に関する共同研究を行っております。2016年3月には、その研究や活動が認められ、日本音声学会の学術奨励賞を受賞しました。

このたび、11月5日（土）、慶應義塾大学三田キャンパスにて、第7回マイボイスワークショップを開催します。ワークショップでは最新の「マイボイス」や「Hearty AI」の紹介・実習、「マイボイス」に関する研究発表等を行う予定です。

つきましては、本取り組みやワークショップについて、ご取材をよろしくお願ひします。

1. 第7回マイボイスワークショップ

慶應義塾大学では、患者さんと臨床現場の作業療法士、大学の研究者、学生などが交流する場を設けるために、ワークショップを随時開催しています。ワークショップでは最新の「マイボイス」や「Hearty AI」の紹介・実習、「マイボイス」に関する研究発表を行っています。第7回ワークショップは、11月5日（土）に三田キャンパスで行われます。「マイボイス」の開発者である吉村・本間両氏を招き、最新の「マイボイス」の紹介や専門議論を行います。

- (1) 日時：2016年11月5日（土）13:00～17:00
- (2) 場所：三田キャンパス南校舎 443 教室
- (3) 講演者：本間武蔵・吉村隆樹・川原繁人他
- (4) 参加資格：興味があるかたはどなたでも参加頂けます（申込不要・無料）。
- (5) 主催：慶應義塾大学言語文化研究所、川原研究室
- (6) 後援：福澤諭吉記念慶應義塾学事振興基金

<http://user.keio.ac.jp/~kawahara/MyVoiceMeetings.html>

2. 研究概要

日常生活で何気なく使っている「自分の声」を病気によって失うことがあります。例えば、ALSのような神経性の難病では、筋肉が徐々に動かなくなり、自分の声を使った発話が困難になり、さらに、自発呼吸が難しくなった場合、気管切開によって人工呼吸器の装着を余儀なくされ、自分の声帯を完全に失ってしまいます。

このような患者さんに対して、自分の声を失う前に、日本語の基本モーラを録音しておき、声を失ったあとも自分の声でコミュニケーションを続けることができる「マイボイス」というソフトを東京都立神経病院の作業療法士・本間武蔵氏と、ボランティア団体のパソボラの吉村隆樹氏が中心となり開発・改良しています。また、手先が動かなくなった後でも、キーボード入力が可能になる「Hearty Ladder」や Tobii の視線入力機器を生かした「Hearty Ladder」なども開発しています。これらのソフトは全て無料で公開しており、難病の患者さんの支援を続けています。

東京都立神経病院と慶應義塾大学との共同研究は、川原繁人言語文化研究所准教授が中心となって、音声学の観点から「マイボイス」の音質改善を目的として2013年に始まりました。具体的には、録音した患者さんの声の音量やピッチ、長さを調整したり、プログラミングによって単純作業を自動化したりしました。その後、皆川泰代文学部准教授が中心となって、「マイボイス」を使用し、患者さん自身の声でコミュニケーションを取ることの意義を神経学的な視点から検証しました。これらの取り組みは、研究機関としての大学と臨床現場の病院との垣根を越えた共同研究となりました。さらに、川原准教授、皆川准教授、杉山由希子理工学部准教授はマイボイスの活動を授業で積極的に紹介しています。興味がある学生は、教員と一緒に神経病院を訪問したり、マイボイスワークショップに参加したりしています。この取り組みは、大学での学びを社会にどのように還元するのかを考える機会を学生に与えています。学生の中には、ワークショップで参加者からアンケートを取り、その結果を授業で発表したり、卒業論文でマイボイスに関する取り組みを取り上げたりする学生もいます。

これらの活動は諸学会でも評価され、2014年の日本音韻論学会での招待講演とそれに伴う招待論文に始まり、2016年には日本音響学会誌での招待論文（日本語版・英語版両方）、日本音声学会の学術奨励賞受賞などの業績を上げています。



ワークショップでの実習



ワークショップでの学生の研究発表



都立神経病院を訪問する様子



日本音声学会学術奨励賞受賞式

※ご取材の際には、事前に下記までご一報くださいますようお願い申し上げます。

※本リリースは文部科学記者会、科学記者会、各社社会部等に送信させていただいております。

本発表資料のお問い合わせ先

慶應義塾広報室（児玉）

TEL：03-5427-1541 FAX：03-5441-7640

Email：m-koho@adst.keio.ac.jp <http://www.keio.ac.jp/>